

コレクション展

秋色を愛でる—近代日本画を中心に—

2020年10月27日(火)～12月13日(日)
大阪市立美術館 第15室

日本画の特徴の一つとして、四季折々の風情を大切にすることが挙げられます。季節に合わせて部屋を彩る日本画に、季節感が求められるのは自然なことと言えるでしょう。本展示では、近代日本画を中心に秋を描いた作品をご紹介します。

「晩秋」になると障子を繕っていた母の姿を思い出して描いた上村松園。月が昇る蕭条たる「枯野」とそこにたたずお狐を迫真の描写に装飾性を融和させて表現した児玉希望。燃えるような「紅葉」を青や金との対比により鮮やかに描き出した横山大観。日本画家たちが様々なかたちで表現する画中の秋色をお楽しみください。

作品名称	作者	員数	制作年代	所蔵者
秋野美人図	磯田湖龍斎(1735-?)	1幅	江戸時代	本館蔵 (ウンゲルン・シュテルンベルク氏寄贈)
箕面探楓図	岡田米山人(1744-1820)	1巻 (2巻のうち)	江戸時代	個人蔵
雀躍稻穂之図	西山完瑛(1834-1897)	1幅	明治4年 (1871)	個人蔵
紅葉	横山大観(1868-1958)	6曲1双		個人蔵
晩秋	上村松園(1875-1949)	1面	昭和18年 (1943)	本館蔵 (住友コレクション)
秋夕帰牧	橋本関雪(1883-1945)	1面		本館蔵 (前田富夫氏寄贈)
霜日	橋本関雪(1883-1945)	1幅		本館蔵 (家田秋蔵氏寄贈)
枯野	児玉希望(1898-1971)	6曲1双	昭和11年 (1936)	本館蔵
富有柿	浜田観(1898-1985)	1幅		本館蔵 (家田秋蔵氏寄贈)